



横浜市立富岡小学校

学校だより1月号



令和6年がはじまりました

校長 浅野 修一

元日から2日にかけて、心を痛めるニュースが飛び込んでまいりました。年頭のご挨拶に先立ち、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

年が明けて、令和6年が幕を開けました。明けましておめでとうございます。元日から暖かい日が続き、「新春」らしい凜とした身の引き締まるような空気を感じることはできませんでしたが、コロナ禍が明け、久しぶりに行動制限のない開放感のある新年となりました。皆様におかれましても、ここ数年とは違うお正月になったのではないのでしょうか。

さて今年は辰年、十二支の中で唯一架空の生物が干支となっている年です。天に上る龍、昇り龍など、運氣や力が集まりさらに発展する縁起のよい年とされています。また龍は先を見通し、力強く進むとも言われます。辰年の今年が、子どもたち一人ひとりが目標をもち、力強く前進しながら立派に成長できる一年となることを願っています。

私は毎年、新年初めの朝会時に「1年の計は元旦にあり」という話をします。富岡小学校に着任して5回目の今回も、その話をしました。常に目標をもって毎日を過ごして欲しいという思いからですが、毎年、子どもたちはどんな目標をもってこの一年を送ろうと思っているのだろうかといういろいろ想像しています。目標をもって生きるということは人間にとってとても大切なことです。何故ならそれは生きる意味を見出したり、生き甲斐のもとになったりするからです。

目標を達成するプロセスを、山登りに例えてみます。丘のような山を目指す人、神奈川県で一番高い丹沢山地にある蛭ヶ岳を目指す人、そして日本一の富士山を目指す人…。ある漫画家の作品の中で、私がとても印象に残っている言葉があります。学問を志しながら身の入らない息子に、父親が「富士山に登ろうと決めた人だけが富士山に登ったんです。散歩のついでに登った人は一人もいませんよ。」と言って諭す場面での一節です。

山は異なっても、皆その山に登ることを決意して登ります。殊に、目指す山が高ければ高いほど、強い決意が必要です。努力して目標を達成できたときは、きっと頂上制覇の気持ちにも似て清々しい気持ちになることでしょう。目標に向かってがんばっていくその積み重ねこそが、「生きる力」となっていくと、私は信じています。ぜひお子さんから目標を聞いていただき、励ましのお言葉をかけていただければと存じます。

最後になりましたが、年頭にあたり児童、保護者、地域の皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、本年も本校の教育活動について、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。